

ここまで来たか「カンニング」

京都大学で先月25日、26日にかけて行われた入試の2次試験で、数学と英語の試験問題の一部が試験の最中にインターネット上の掲示板に掲載されたことが判明し、大学では調査を進めると共に、警察に被害届けを出すとのことです。また、こうした入試問題がネット上に流出する事件は他大学でも起こっているようで、事態はかなり深刻なのではないかと思われます。

問題の掲示板は「質問サイト」と呼ばれるもので、全ての投稿に回答があったといいますから、ネット社会の広がりや凄まじさにアナログ世界の小生としては驚くばかりです。

監視が厳しい中で、しかも試験時間の最中に行われたということですから、組織的に行われたのではと思いますが、いずれにしてもとんでもない悪知恵の働く人間がいるものだと思います。

昔から、試験といえば「カンニング」が付きもので、試験監督員と受験者のイタチごっこみたいな所がありますが、しかし、これはゲームではありませんから、「カンニング」などの不正が明らかになれば折角受検しても点数は与えられませんし、仮に一旦は合格したとしても、後日その合格は取り消されることになるでしょう。

何故「カンニング」などするのでしょう。

悪いことをしている、という罪悪感の低下

自分さえ良ければ、という自己中心主義

どんな方法であれともかく合格しさせれば後は何とかなるだろう、と

いう楽観主義

色々なことが考えられますが、不正が発覚した場合には極めて厳しい社会的制裁を受けることになる、そうしたことには余り想像力が働いていないように思います。

入学試験というのは、長い人生のほんの入り口にいるに過ぎませんが、そこでアンフェアな生き方を選択してしまうと、その後の長い人生においても様々な場面で同じような選択をしていくことになるのではと危惧します。

自分が不正によって利益を受けるということは、他者の努力を踏みにじることになりますし、それで良しとする者は、立場を変えて自分が被害者になっても相手を非難することはできないでしょう。

努力したからといって必ずしもよい結果が得られるとは限らない、自分の人生を振り返るとそう思うことの方が多かったように感じますが、自分なりに努力してきたことへの自信のようなものは残っていますし、それが次に繋がる力になってきたように思います。

若い皆さんには、苦しくても、堂々たる人生を歩んでいただきたいと願っています。 (塾頭 吉田 洋一)